Short キイトルーダ+シスプラチン+ゲムシタビン療法

大津赤十字病院 薬剤部

【治療スケジュール】

以下のメニューのおくすりを3週間毎繰り返します。

	←――― 1クール ―――→			
	第1日目	2～7日	8日	9～21日
薬剤名 / 外観 / 液色 / 薬効	投与方法	点滴	点滴	点滴
① 生食注 / 無色 / お薬を洗い流します。	↓ 15分・点滴	お休み	お休み	お休み
② キイトルーダ注® (ペムブロリズマブ) / 無色 / 細胞増殖を抑えます。	↓ 30分・点滴			
③ 生食注 / 無色 / お薬を洗い流します。	↓ 15分・点滴			
④ パロノセトロンバッグ アロカリス注 デカドロン注 / 無色 / むかつき、吐き気及びお薬の過敏症を抑えます。	↓ 30分・点滴			
⑤ 生食注 / 無色 / お薬を洗い流します。	↓ 全開・点滴			
⑥ デカドロン注 / 無色 / むかつき、吐き気及びお薬の過敏症を抑えます。	15分・点滴		↓	
⑦ ゲムシタビン注® (ゲムシタビン) / 無色 / 細胞増殖を抑えます。	↓ 30分・点滴		↓	
⑧ 生食注 / 無色 / お薬を洗い流します。	↓ 全開・点滴		↓	
⑨ ソリタT1 アスパラギン酸カリウム注 硫酸マグネシウム / 無色 / 水分・電解質を補給します。	↓ 1時間・点滴		お休み	
⑩ マンニットール / 無色 / 尿を出しやすくします。	↓ 30分・点滴			
⑪ シスプラチン注® (シスプラチン) / 無色 / 細胞増殖を抑えます。	↓ 1時間・点滴			
⑫ ソルデム3A輸液 / 無色 / 水分補給します。	↓ 1時間・点滴			

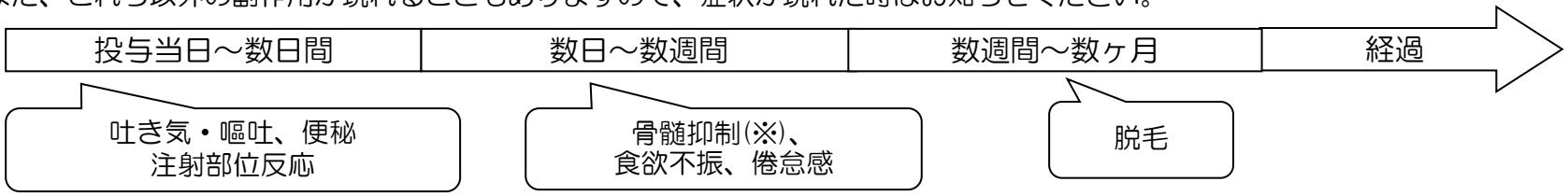
※お薬の投与速度・投与間隔が変わることがあります。また、症状に応じてお薬を変更・追加・削除することがあります。

【注意事項】

点滴中は安静にし、注射の針を刺している部分が動かないように心掛けてください。
お薬が皮膚に漏れると、針を刺している部分に違和感や痛み、腫れ、赤み等が現れることがあります。
このような症状がありましたら速やかにお知らせください。
また、このような症状は点滴終了後や、しばらくたってから起こることがありますのでご注意ください。
腎臓の機能を守る為、点滴の投与日から3日間は水分を1L補給し、こまめに排尿するように心掛けてください。
特に、シスプラチンを投与する日は、シスプラチン投与終了時までに1Lの水分摂取をしてください。
なお、脱水症状および食事摂取量が減るなどの症状がある場合は、追加で点滴をすることがあります。

【副作用と発現時期】

ここにはあくまで一般的に予想される副作用が、いつごろ現れるかをお示ししています。
これらの症状が必ず起こるということではありません。発現頻度・程度・時期には個人差があります。
また、これら以外の副作用が現れることもありますので、症状が現れた時はお知らせください。



※骨髄は、血液成分である白血球・赤血球・血小板等を産生する臓器です。骨髄抑制とは、その機能が低下することを言います。

【注意が必要な副作用】

次に示すような副作用が報告されています。下記の症状が現れた時は医師または薬剤師へお知らせください。

骨髄抑制　：★38℃以上の発熱、咳、下痢、排尿痛・残尿感、性器痛、肛門痛、
　　鼻血、血便・血尿、歯茎出血、腕や足の赤い斑点、疲れやすい、めまい・息切れ
過敏症　：★呼吸困難、じん麻疹、眼および口の周囲の腫れ、冷汗、頻脈
消化器症状　：★突然の激しい腹痛、背部痛、重度の下痢、脱水症状、もたれ、胸やけ、吐き気、嘔吐、食欲不振
心障害　：★呼吸困難、足などのむくみ、咳の増加、胸痛、みぞおちや頚部の締付け、圧迫感、冷汗
腎障害　：★顔・手足などのむくみ、尿量減少、尿が赤みを帯びる、体重減少、口の渇き、高度の蛋白尿
肝障害　：★全身倦怠感、食欲不振、疲れやすい、腹部不快感、黄疸(皮膚や眼などが黄色くなる)
皮膚障害　：★中央に浮腫を伴った発疹、まぶた・眼球結膜の充血、口腔内の痛みを伴った粘膜疹
脳障害　：★突然の激しい頭痛、意識障害、歩行時のふらつき、四肢末端のしびれ感、舌のもつれ、うまく話せない、
　　けいれん発作、精神状態変化、視覚異常
肺障害　：★胸痛、意識障害、呼吸困難、(空)咳、発汗、発熱、ピンク色の痰がでる、尿量減少、むくみ
抗利尿ホルモン不適合分泌不全：★全身倦怠感、無気力、眠気、意識障害、昏睡
横紋筋融解症：★筋肉が痛い、手足に力が入らない、尿が赤褐色になる
視覚障害　：★視力低下、視野異常、色覚異常
聴力障害　：★耳が聞こえにくい、耳鳴り、高音が聞こえにくい

連絡先　大津赤十字病院
TEL 077-522-4131
平日8:30 ～ 17:00　受診されている診療科
平日17:00 ～ 翌8:30 及び 休日　救急外来

2026/11改訂

【免疫チェックポイント阻害薬投与中に気をつける症状】

がん免疫療法の一つである免疫チェックポイント阻害薬は、がん細胞によって抑えられていた免疫機能を再び働きかけることによってがん細胞への攻撃力を高めます。この免疫の作用が過剰に働きすぎることで副作用が起こる可能性があります。
これらの症状が必ず起こるということではありません。発現頻度・程度・時期には個人差があります。
あらかじめ副作用の種類や症状を知ることで、副作用の早期発見と対処につながります。
安心して治療を継続するためにも、以下に記載している症状が現れた場合は、医師または薬剤師にご相談ください。

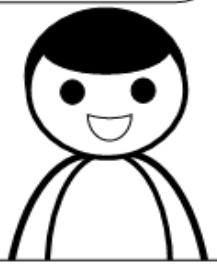
□ 息切れ、息が苦しい
□ 空咳（痰がない咳）
□ 発熱
・・・**風邪によく似た症状**です.
間質性肺疾患の
可能性があります。

□ いつもより排便回数が多い
□ 血便
□ 黒い便が出る
□ 腹痛を伴う下痢
□ 吐き気・嘔吐
・・・**大腸炎**の可能性があります。

□ 皮膚がかゆい
□ 発疹が出る
□ ひどい口内炎
□ 水ぶくれが出る
・・・**皮膚障害**の可能性があります。

□ 皮膚や白目が黄色くなる
□ 体のだるさ
□ 吐き気
・・・**肝障害**の可能性があります。

□ いつもより疲れやすい
□ からだがだるい（倦怠感）
□ 体重の増減がある
□ 気力の低下
・・・**甲状腺・下垂体・副腎など内分泌異常**の確認が必要です.



この他にも気になる症状があれば、医師または薬剤師に申し出てく

□ 手足に力が入らない
□ ものが二重に見える
□ ろれつが回らない
□ 呼吸が苦しい
□食べ物がうまく飲み込めない
・・・**重症筋無力症、筋炎**の可能性があります。

□ 水をいつもより多く飲む（水分をとってもすぐにのどが渇く）
□ のどが渇く
□ 尿が増える
・・・**１型糖尿病**の可能性があります。

連絡先　大津赤十字病院
TEL 077-522-4131

平日8:30 ～ 17:00　受診されている診療科
平日17:00 ～ 翌8:30 及び 休日　救急外来

□ 手足に力が入らない
□ しびれ
□ 疲れやすさ
□ 痛み・感覚が鈍くなる
□ ものがつかみにくい
・・・**神経障害**の可能性があります。